

研究課題名	人間ドックを契機に診断された好酸球性食道炎と症状を契機に診断された好酸球性食道炎の臨床像および内視鏡所見の比較検討
研究の意義・目的	特定難病疾患の1つである好酸球性食道炎は、食物や空気中に含まれる物質が抗原となって食物の食道に好酸球が集まることでつまり感や嚥下困難が起きる慢性のアレルギー疾患です。症状が軽微な方が健診施設で見つかることが増えてきており、更なる疾患概念の理解が必要です。受診者の情報を遡って検討し、評価することを目的としています。本研究では、健診受診によって発見された好酸球性食道炎患者の特徴と、病院受診によって発見された好酸球性食道炎の特徴について比較し、それぞれの群の性質を明らかにします。本研究により、好酸球性食道炎への疾患概念の理解を深め全国の健診施設へ発信していくことを目的としています。
研究を行う期間	研究機関の長の研究実施許可後～2027年3月
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2015年5月1日～2027年3月31日の期間に大阪公立大学医学部附属病院先端予防医療部附属クリニック MedCity21 及び大阪公立大学医学部附属病院において上部消化管内視鏡検査を受診した受診者が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 1 上部消化管内視鏡時の観察記録および、その際の状況についての診療録、看護記録（患者酸素飽和度、血圧、検査時間診情報等） 2 患者基本情報:年齢、性別、現病名、問診調査(現病歴、既往歴、家族歴、アレルギー歴、内服歴、喫煙歴)等 3 生理学的検査:身長、体重、BMI等 5 画像検査結果:上部消化管内視鏡検査等 6 病理組織検査結果:上部消化管内視鏡検査で生検された組織標本等
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪公立大学医学部附属病院先端予防医療学、消化器内科のみで行い、他の施設に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪公立大学医学部附属病院先端予防医療学、消化器内科のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪公立大学大学院医学研究科 先端予防医療学 研究責任者 灘谷 祐二
本研究の利益相反	利益相反の状況については大阪公立大学利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力したくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 先端予防医療学 (担当者氏名) 灘谷 祐二 MedCity21 人間ドック・健診エリア(電話番号:06-6624-4010) メールアドレス:dada@omu.ac.jp